

■■まじめに考えようゲリラ豪雨対策■■

コミケット40年以上の歴史をひもとけば、夏冬問わず、会期中は圧倒的に晴天であったことが多い。しかし、回数こそ少ないとはいえ、雨（冬コミでは降雪・積雪ということもあった）に見舞われたコミケットは一般・サークル両方にとって多大な苦勞を強いられた辛い記憶として語り草になっている。

各待機場所は多くが屋外で、前後左右に密集した待機列では雨宿りもままならない。扱うのはもちろん水濡れ厳禁の同人誌。会場でよく使用される紙袋や普通のバッグ類は防水仕様にはなっていない……と、小雨がばらつくくらいならまだしも、コミケットは真夏の夕立ちやゲリラ豪雨に襲われたらかなり悲惨なことになるイベントなのだ。

もし雨に見舞われた際に、自分の身と大切な戦利品やサークルの出品物を守るのは自分自身しかない。今や『降らない』への一点張りはリスクが大きすぎる。今回がまた、雨のコミケットの一回になってもおかしくない、ということをお腹に銘じて参加者全員が最低限の雨対策は用意してほしい。

■雨への備えは晴れても有効■

■基本の雨対策

- ・ツバのある帽子
- ・ポンチョやレインウェア
- ・折り畳み傘
- ・フェイスタオル2、3枚
- ・45Lほどのゴミ袋／ポリ袋数枚
- ・肌着／下着／靴下の着替え
(あるいは速乾透湿生地中心の着衣)

レインウェアやポンチョを着たまま館内に入る時には、タオルで表面の水滴をよくぬぐってから入ること！

■一般待機列用追加雨対策

- ・薄手のレインウェア、防水仕様のウインドブレーカー
- ・薄手の乾きやすいズボン、スカート（濡れても透けない物）
- ・折り畳みミス
- ・ミニタオル2、3枚
- ・防水、あるいは透水性能のある靴（サンダル以外）
- ・ウールか化繊の靴下

ダンボールの中身を全てビニール袋に入れてから箱に入れば多少箱が濡れても安心だ。

■サークル参加用追加雨対策

- ・70Lほどの大判のゴミ袋／ポリ袋
- ・雑巾
- ・レジャーシートなどのビニールシート
- ・布ガムテープ（紙のテープは濡れていると張り付かない）



傘は360度全周に突き出した骨の先端が周囲の参加者の目や顔の高さになるために大変危険で同時に傘に落ちた雨水が周囲に流れ落ちるために非常に迷惑となる。

また、長時間の待機では完全に雨を防ぐことは難しく、荷物が濡れやすい上に、いったん入場してしまったら、長い傘は邪魔で管理の面倒な手荷物となってしまう。これらの理由からコミケットの待機環境では全く有効な雨対策装備ではない。

会場で使用すること自体は禁じられていないが、待機列などの人口密度が高い場所では上に挙げたように周囲への安全面からスタッフや周囲の参加者から傘を閉じるよう要請される場合がある。そういった場合に応じることができるようにという意味でも傘意外の雨対策は必須だ。



夏コミといえば暑さ対策、日射し対策が取り沙汰されるが、こと雨となると多少事情が違ってくる。真夏日に夕立が来るなら気温そのものはあまり変化しないが、ゲリラ豪雨タイプの雨の場合は気圧の関係で、降雨前後に急激に気温が下がることがある。また、前夜や未明から雨が降り続けていると夜が明けても気温があまり上がらない、あるいは肌寒い、と感じる気温まで下がることもある。『真夏に気温が上がらないなら結構なことじゃないか！』と思うなかれ、真夏の環境のつもりで薄着で、上着なども持っていない場合、雨に濡れたまま風に当たっていたりすると真夏でも低体温症を起こす危険が十分にある。夏でも雨に濡れないことと、乾いた着替えの用意はとても大切なのだ。

